

2023年12月期 第1四半期決算



補足説明資料

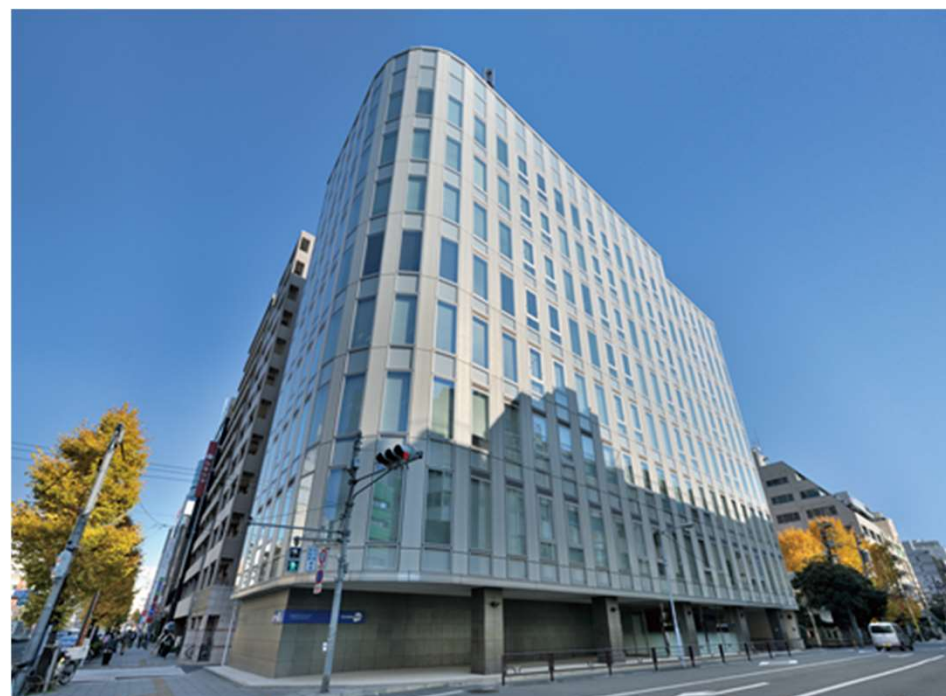
株式会社テクノフレックス
証券コード:3449

- ✓ 本資料に記載された将来の見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき作成されたものであり、将来発生する様々な要因により、異なる結果となる可能性を含みます。
- ✓ 2022年12月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)を適用しております。
- ✓ 2021年12月期以前の実績は「収益認識に関する会計基準」を適用する前の数値を記載しております。
- ✓ 2022年4月1日付で、連結対象の完全子会社「株式会社アクアリザーブ」と合併いたしました。これに伴い、2022年12月期 第2四半期から、「防災用貯給水タンク」の業績を「防災・工事事業」から「継手事業」にセグメント変更しております。そのため本資料では、セグメント変更後の数値を、参考情報として記載しております。

1. 2023年12月期 第1四半期決算概要

2. 2023年12月期 業績予想

(補足資料)
テクノフレックスの概要



1. 2023年12月期第1四半期決算概要

2023年12月期 第1四半期 連結業績 1 前年同期比・計画比



◆ 連結業績(前年同期比・計画比)

単位:百万円

	連結業績		前年同期比 (伸長率)		計画比(進捗率)			
	2022_1Q	2023_1Q			2Q累計		通期	
連結売上高	5,553	5,142	▲411	▲7.4%	12,000	42.9%	25,500	20.2%
連結営業利益	878	509	▲369	▲42.1%	1,300	39.2%	3,300	15.4%
親会社株主に帰属する 当期/四半期純利益	588	325	▲263	▲44.7%	850	38.3%	2,200	14.8%

● 連結売上高

- ✓ 前期1Qは、継手事業の半導体関連の売上が好調でしたが、当期1Qは、半導体関連市場が端境期にあり、売上が減少したこと等から、当期1Qの前年同期比は、▲411百万円(▲7.4%)となりました。
- ✓ 当期計画は、半導体関連が端境期にあることを踏まえ、1Qの売上比率を小さく見積もっており、2Q累計の計画に対する当期1Qの進捗は、遅れが生じているものの、想定範囲内と見ております。

● 連結営業利益

- ✓ 前期1Qは、利益率の高い半導体関連の設備工事と消防設備工事が好調であったこと等の反動と、当期1Qは、半導体関連が端境期にあること等から、前年同期比▲369百万円(▲42.1%)となりましたが、直近2年間(2021年1Q～2022年4Q)における平均の四半期営業利益(約670百万円)との比較では、▲161百万円(▲24.1%)となっております。

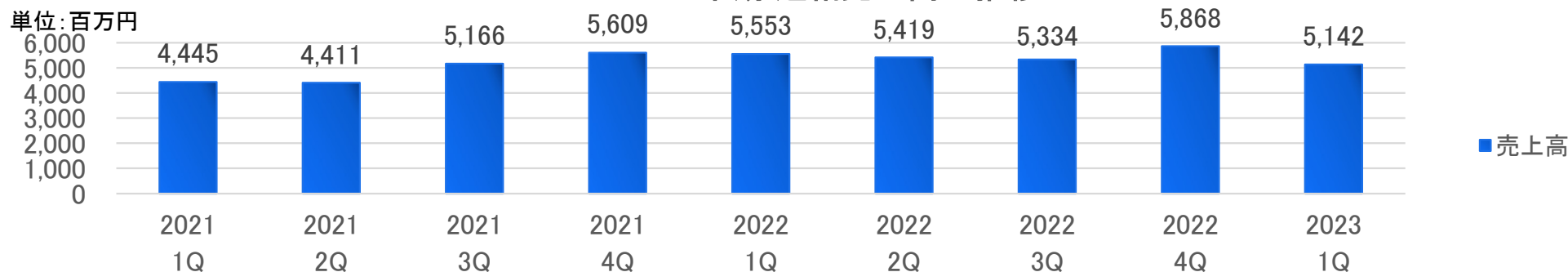
● 親会社株主に帰属する四半期純利益

- ✓ 上記の通り、半導体関連の収益が低調なこと等から、親会社株主に帰属する当期純利益も低調でした。
- ✓ その結果、前年同期比▲263百万円(▲44.7%)となりました。

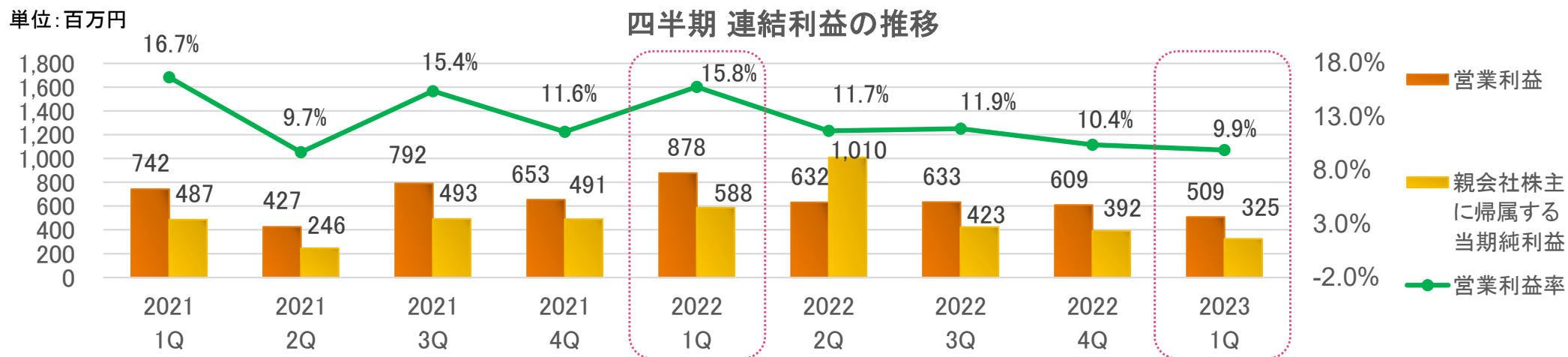
2023年12月期 第1四半期 連結業績 2 四半期業績の推移



四半期 連結売上高の推移



四半期 連結利益の推移

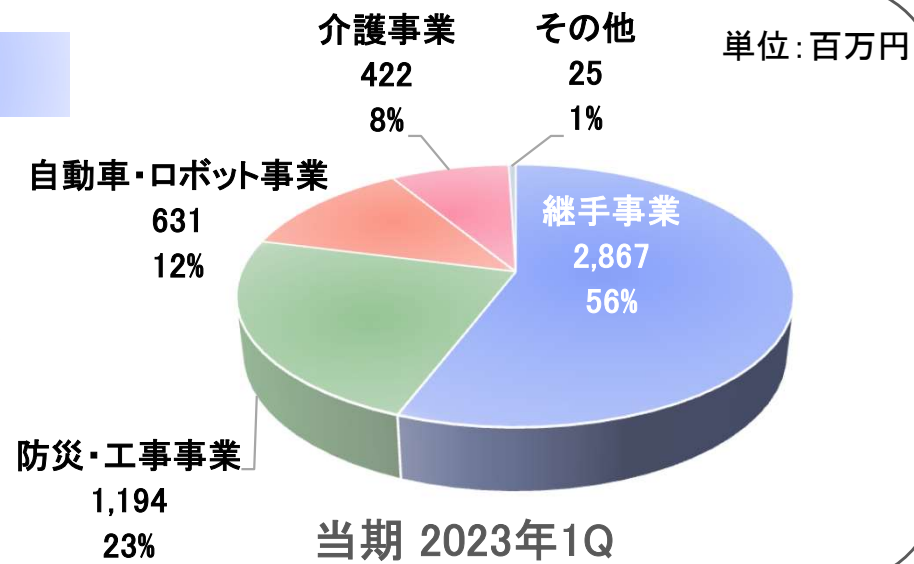
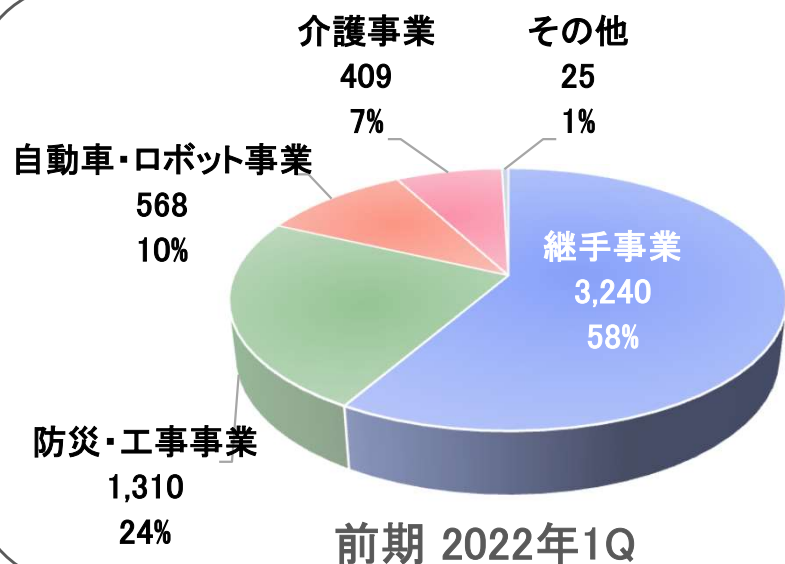


- 四半期業績は、半導体関連の設備工事(継手事業 真空機器)や消防設備工事(防災・工事事業)といった工事業の業績により、大きく変動します。特に、工事業は案件により利益率が大きく異なるため、四半期の営業利益が大きく影響を受けます。
- 前年同期(2022年1Q)は、利益率の高い半導体関連の設備工事と消防設備工事が重なり利益が増加しているのに対し、当期(2023年1Q)は、半導体関連が端境期にあり売上が減少したこと、消防設備工事では原材料価格の上昇に対する顧客への価格転嫁が進まず利益率が低下したこと等から、当期1Qの利益が、前年同期比マイナスとなりました。
- 2022年2Qの親会社株主に帰属する四半期純利益が大きいのは、連結子会社であった(株)アクアリザーブの吸収合併に伴う税効果によるものです。

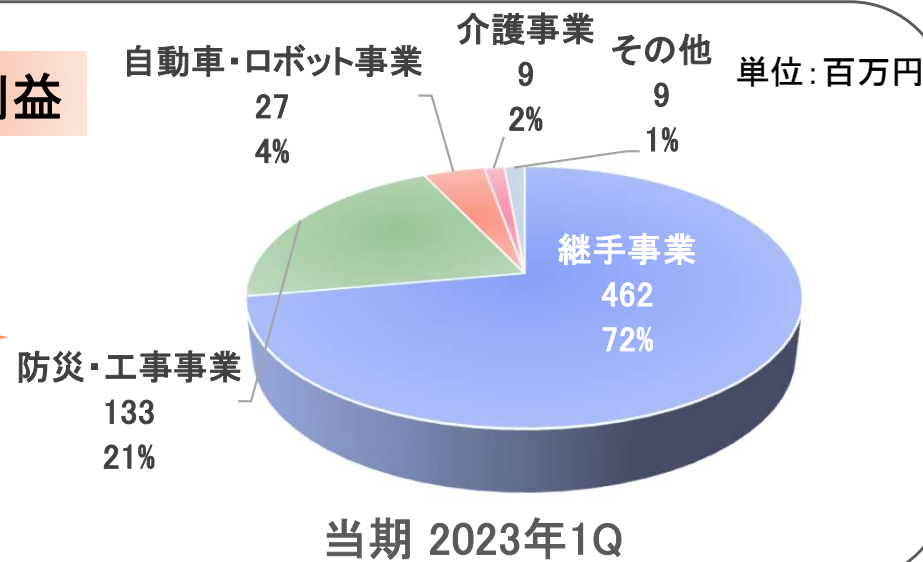
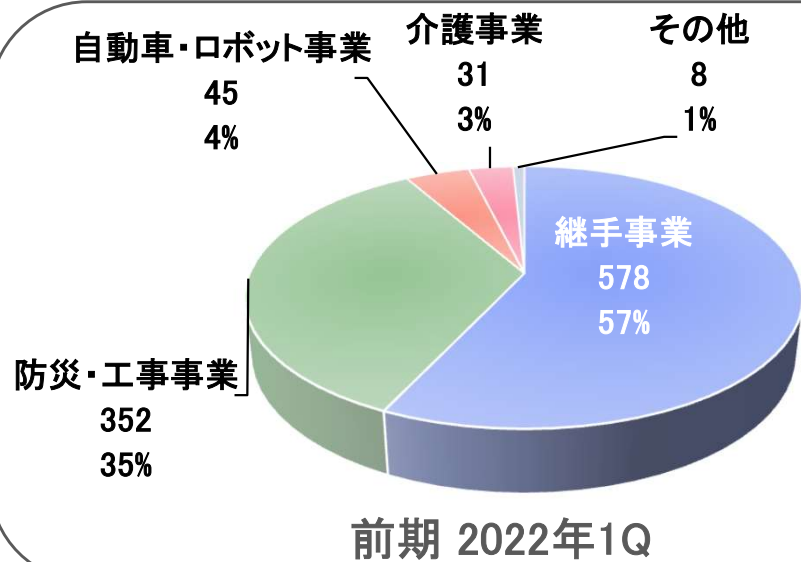
2023年12月期 第1四半期 セグメント構成比



売上高



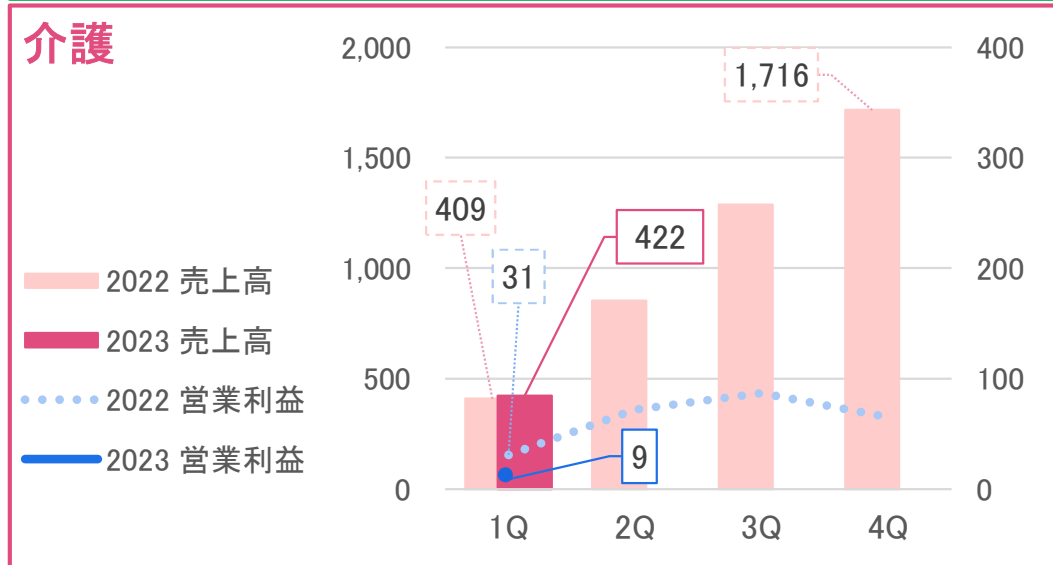
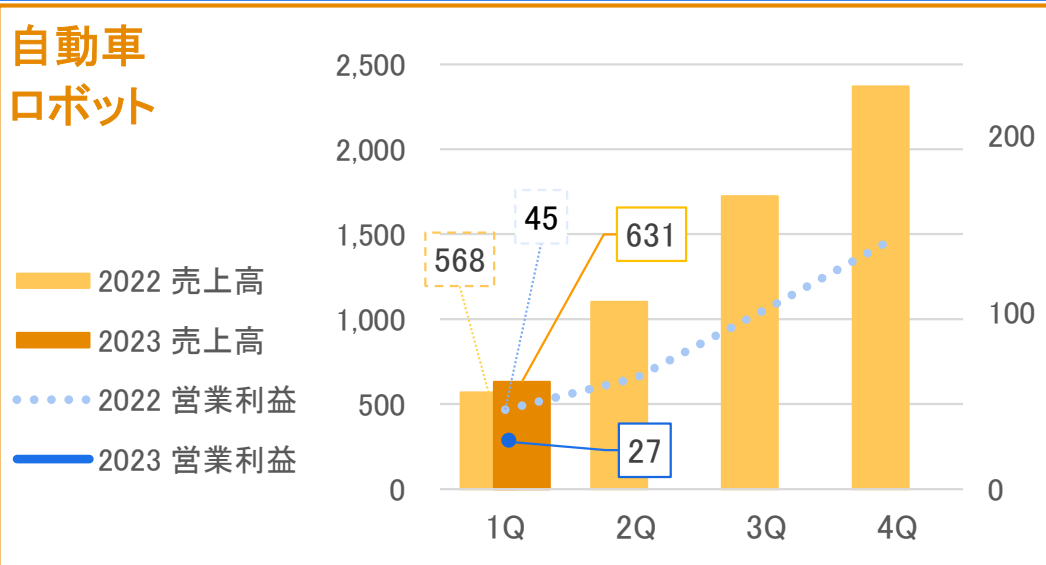
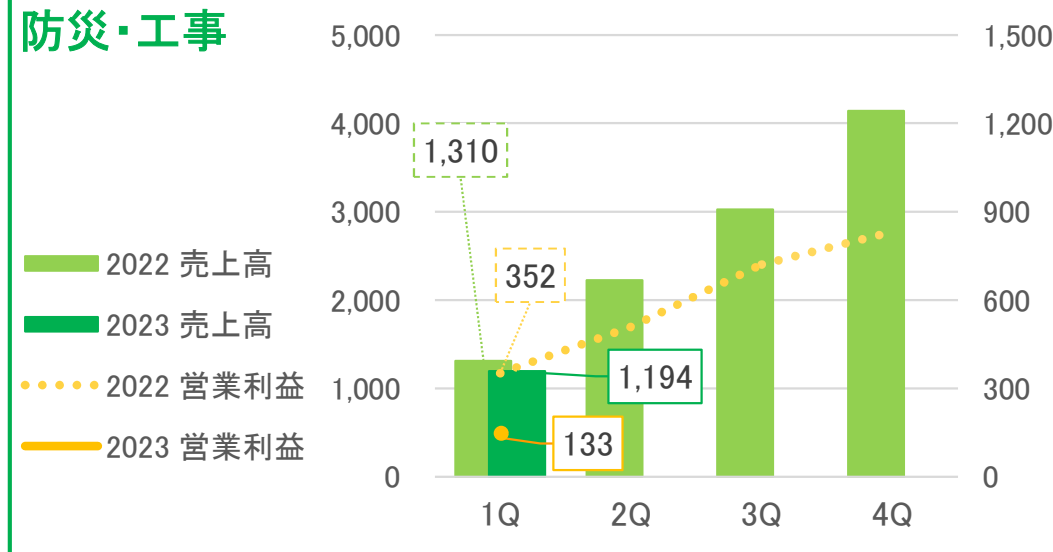
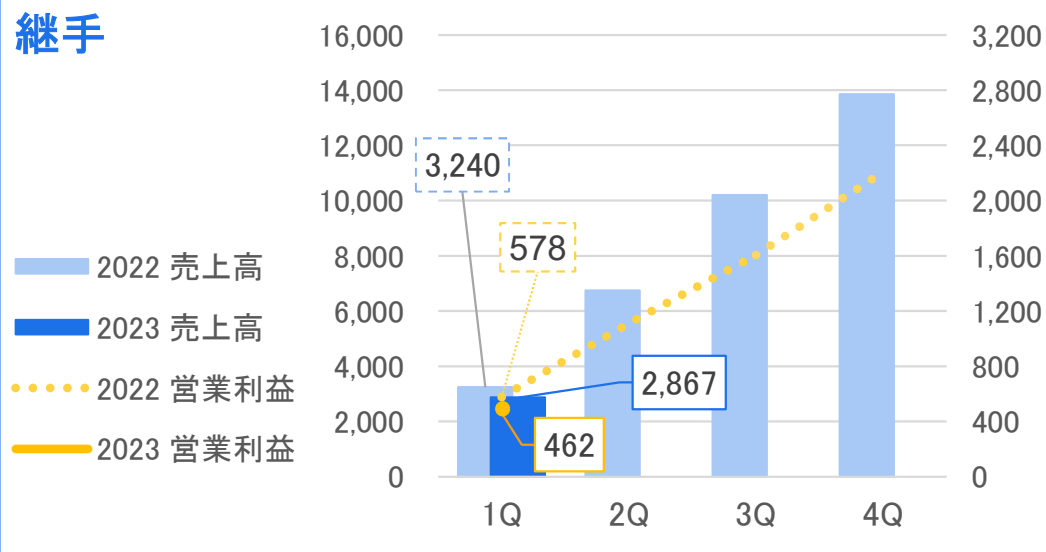
セグメント利益



2023年12月期 第1四半期 セグメント業績 前年同期比(累計)



単位: 百万円



➤ 前期1Qの好業績の反動と、半導体関連の市場が端境期にあること、原材料価格の上昇に対する顧客への価格転嫁が進んでいないこと等から、累計売上高は4つの事業セグメントのうち2つが前期比プラス、累計営業利益は全ての事業セグメントが前期比マイナスでした。

2023年12月期 第1四半期 セグメント業績 1 継手事業

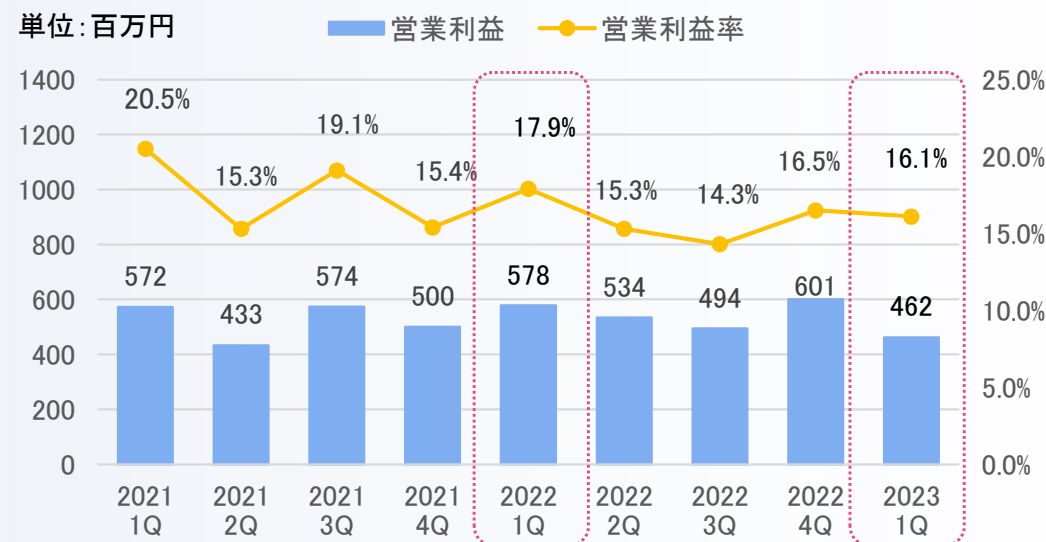


◆ 継手事業(1)

売上高の推移



営業利益の推移



➤ フレキシブル継手

堅調に推移しておりますが、前期1Qが好調であったため、前年同期比は微増となりました。

➤ 伸縮管継手

前期1Qが、原子力発電分野を中心に好調であった反動から、前年同期比マイナスでした。

➤ 真空機器

医療機器向けのクライオホースが売上を伸ばしましたが、半導体関連市場が前期終盤から端境期に入り売上が減少したことから、真空機器全体では、前年同期比マイナスでした。

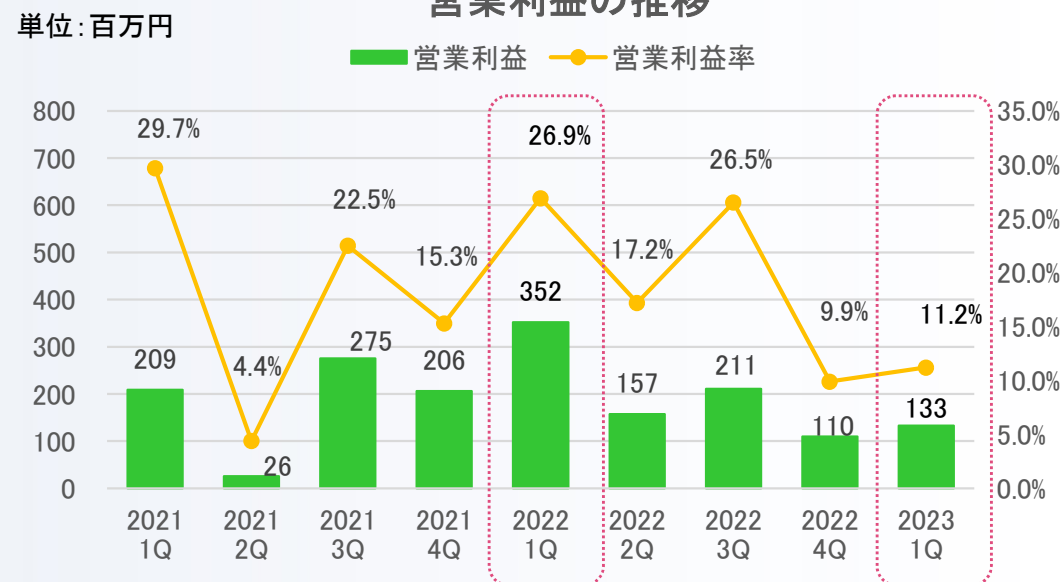
- 以上のことから、継手事業の前年同期比は、売上高▲372百万円(▲11.5%)、営業利益▲115百万円(▲20.0%)となりました。

◆ 防災・工事事業

売上高の推移



営業利益の推移



➤ 消防設備工事

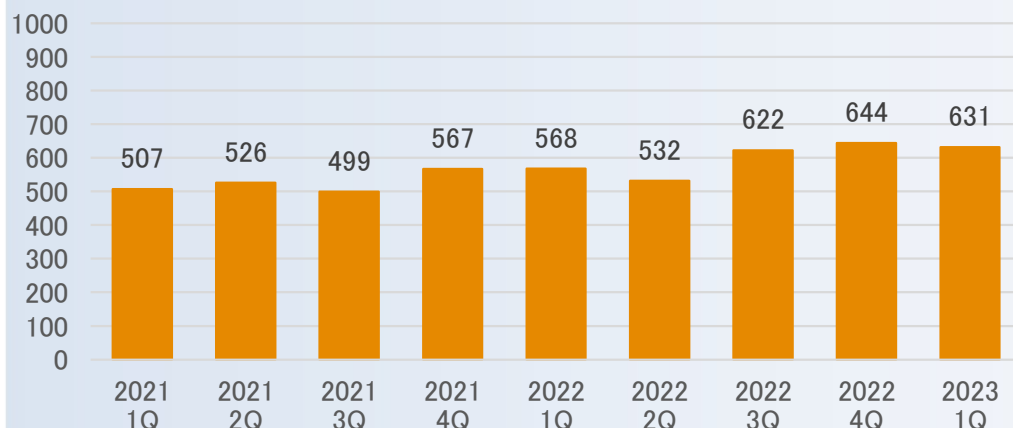
首都圏再開発の大型工事が多い状況が、当期も続いておりますが、前期1Qに利益率の高い大型工事を売り上げていることの反動と、原材料価格の上昇に対して顧客への価格転嫁を進められなかったことによる利益率の低下等から、前年同期比マイナスでした。

- 以上のことから、防災・工事事業の前年同期比は、売上高▲115百万円(▲8.8%)、営業利益▲219百万円(▲62.1%)となりました。

◆ 自動車・ロボット事業

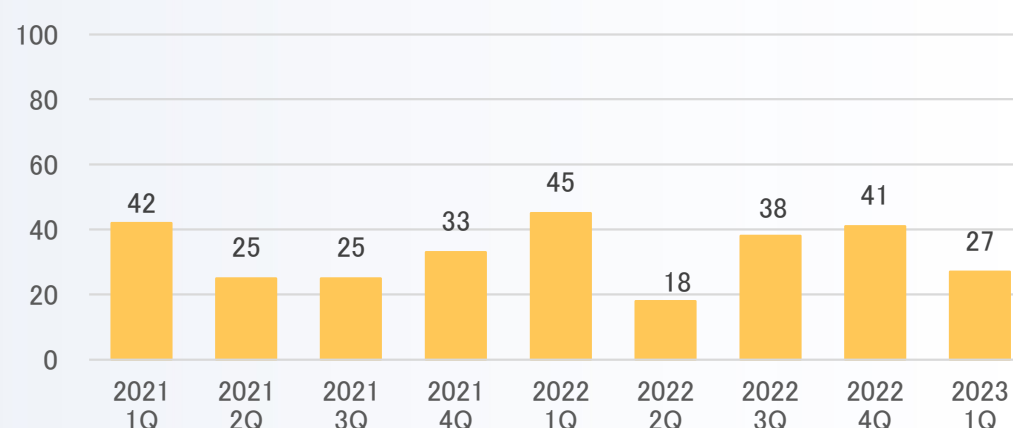
売上高の推移

単位:百万円



営業利益の推移

単位:百万円



➤ 自動車分野

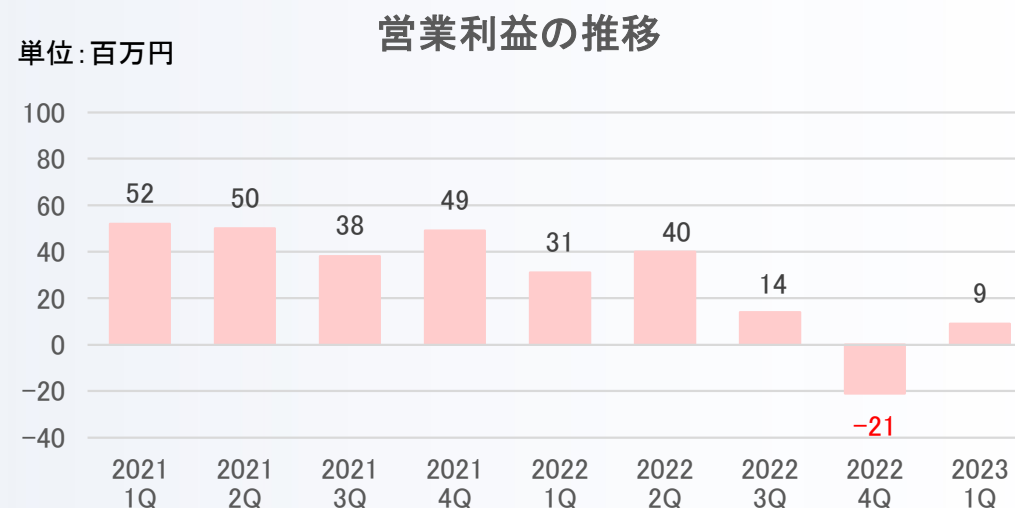
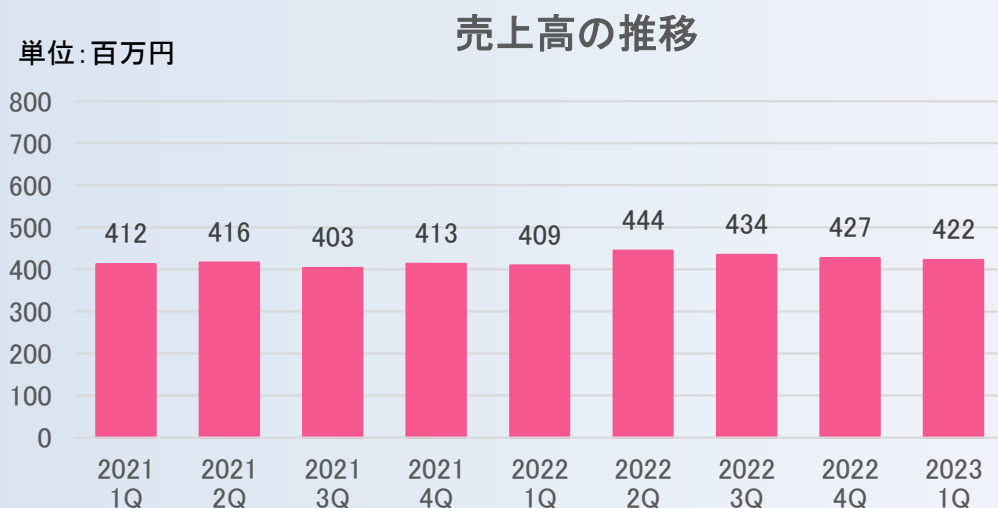
自動車分野は、自動車メーカーの納期調整等があり、前年同期比微減でした。

➤ ロボット分野

ロボット分野の需要は好調ですが、当期1Qにロボット向け金属部品の増産に向けた準備費用が発生していることから、前年同期比は増収減益となりました。

- 以上のことから、自動車・ロボット事業の前年同期比は、売上高+63百万円(+11.2%)、営業利益▲17百万円(▲38.5%)となりました。

◆ 介護事業



- 前期に他社の福祉用具レンタル事業を買収したこと等により、前年同期比の売上は微増となりましたが、当該買収によるのれん償却費等の販管費が増加しております。
- レンタル市場の競争激化、レンタル原価の上昇、介護業界の人員不足等も、減益要因となっております。
- 以上のことから、介護事業の前年同期比は、売上高+13百万円(+3.2%)、営業利益▲22百万円(▲70.7%)となりました。

2. 2023年12月期 業績予想

2023年12月期連結業績予想 SUMMARY



◆ 連結業績予想

単位:百万円

	2Q累計		通期	
	2022年 業績	2023年 予想	2022年 業績	2023年 予想
連結売上高	10,972	12,000 (+9.4%)	22,174	25,500 (+15.0%)
連結営業利益	1,510	1,300 (▲13.9%)	2,752	3,300 (+19.9%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,598	850 (▲46.8%)	2,413	2,200 (▲8.8%)

● 連結売上高

- 上期は、半導体関連が端境期にあり、大幅な増収は見込めないものと予想しております。
- 下期は、半導体関連の市況回復と、半導体工場、再開発事業、データセンター等の大型工事案件が開始される見込みであり、真空機器(継手事業)と消防設備工事(防災・工事事業)の売上が増加する予想としております。

● 連結営業利益

- 上期は、円安要因を含む原材料価格の高騰による利益率の低下を加味し、前期比マイナスの予想としました。
- 下期は、半導体関連の市況回復と、大型工事の増加から前期比プラスに転じ、通期でプラスとなる予想です。

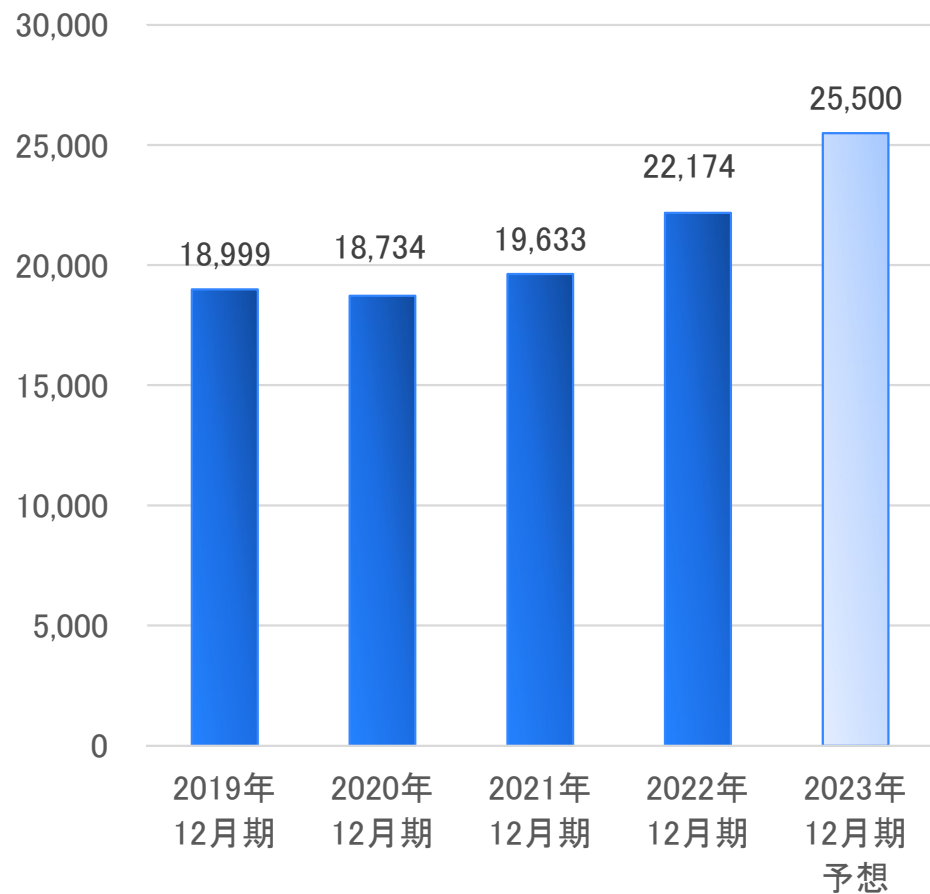
● 親会社株主に帰属する当期純利益

- 2022年12月期は、吸収合併に伴う法人税等調整額(益)566百万円を計上しているため、2022年12月期の親会社株主に帰属する当期純利益2,413百万円から、法人税等調整額(益)566百万円を差し引いた金額約1,850百万円に対し、収益の増加等を加算し、2,200百万円の予想としました。

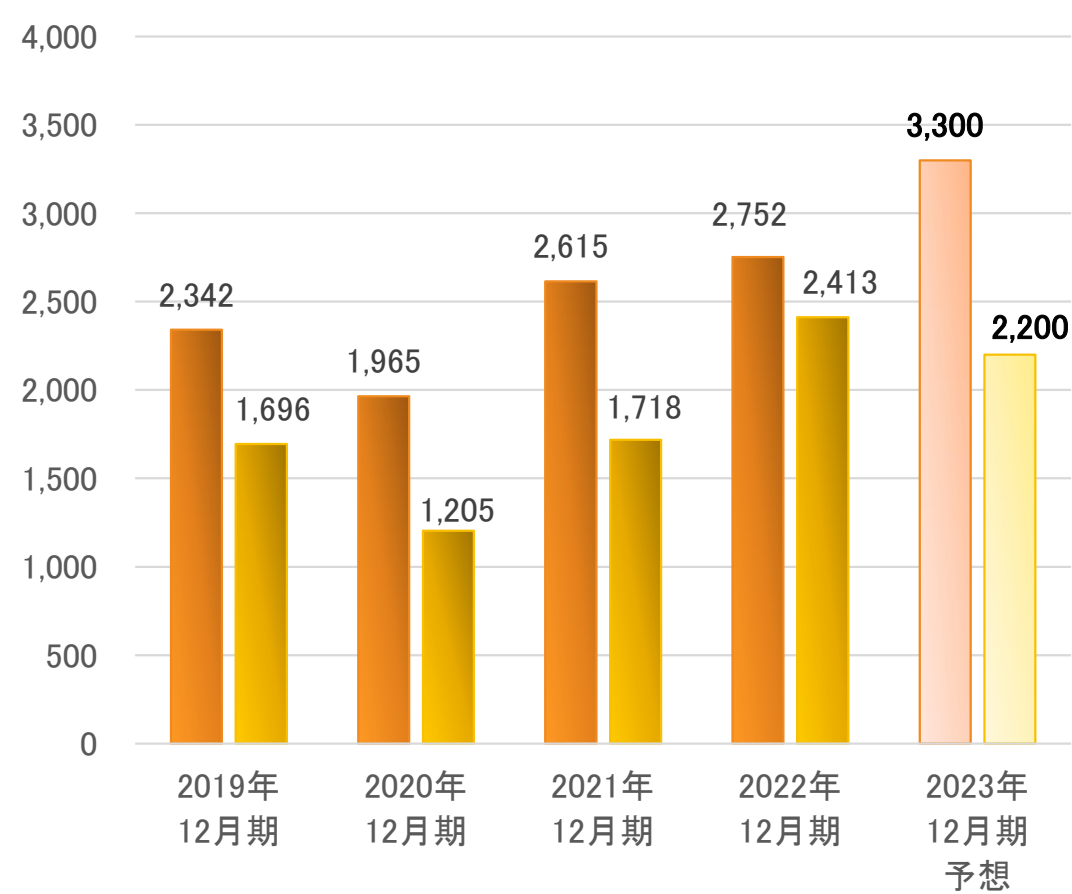
2023年12月期連結業績予想(直近4年間の実績と比較)



単位:百万円



単位:百万円



◆ 継手事業

- フレキシブル継手と伸縮管継手は、堅調に推移する見込みです。
- 真空機器は、前期終盤から半導体関連の市況が端境期に入ったことと、半導体工場の大型工事の予定が上期に無いことから、上期に大幅な増収は見込めないものと予想しております。下期は、半導体関連の市況が回復し、半導体工場の大型工事が再開される見込みから、真空機器の業績が好転する予想としております。

◆ 防災・工事事業

- 消防設備工事は、半導体関連、首都圏等の再開発事業、データセンター等の大型工事が下期に増加し、増収増益となる見込ですが、案件ごとの進捗や利益率により、四半期ごとの収益には、波が生じるものと思われま

◆ 自動車・ロボット事業

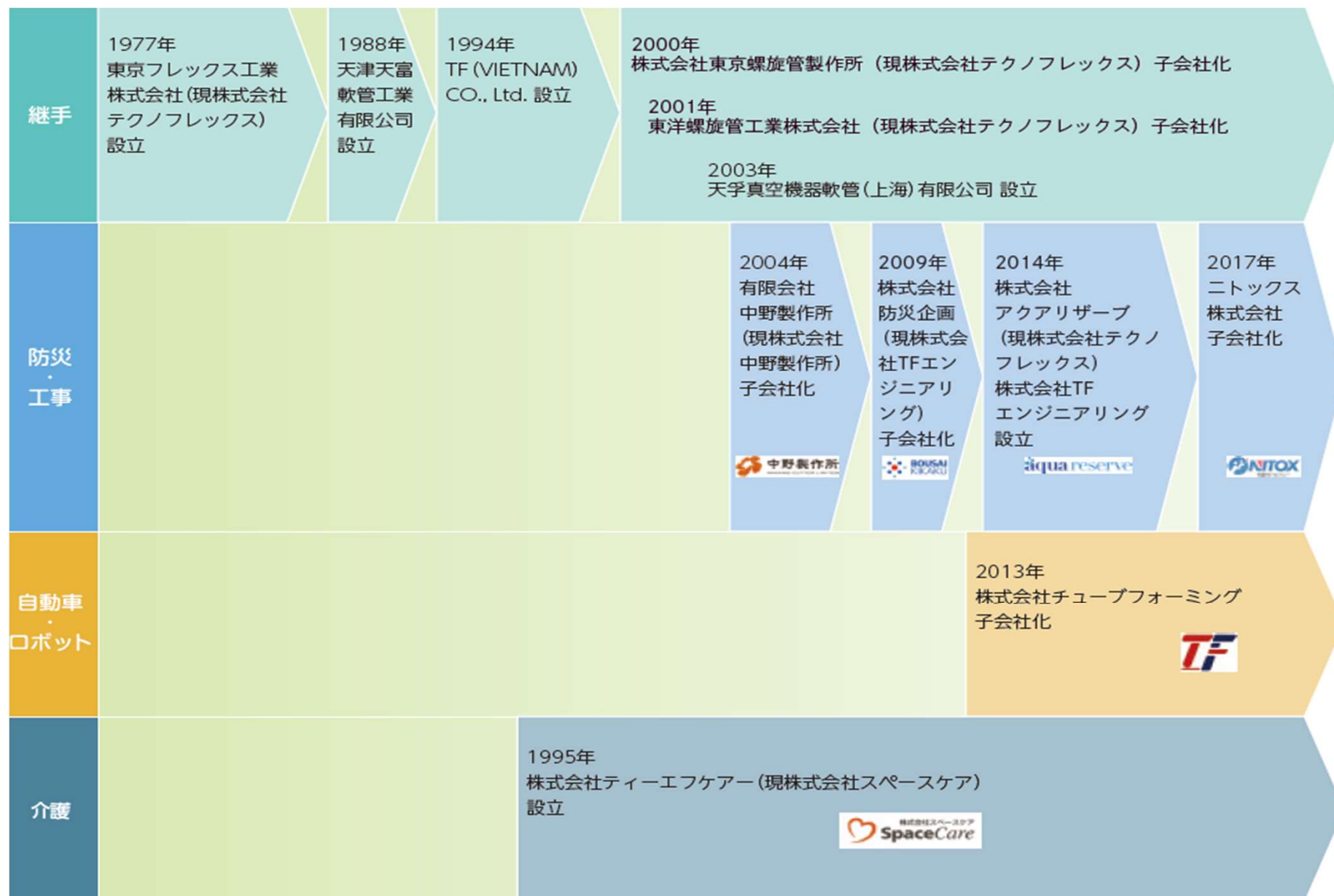
- ロボット分野の需要拡大に応じて、増産体制の構築を進めております。期中に増産を開始し、売上増加を見込んでおりますが、増産体制構築の費用から、上期は利益率の低下を予想しております。

◆ 介護事業

- 介護用品のレンタル市場は、厳しい状況が継続するものと思われま

(補足資料) テクノフレックスの概要

会社名	株式会社テクノフレックス
代表者名	代表取締役社長 前島 岳
本社所在地	東京都台東区蔵前一丁目5番1号
資本金	10億円(2022年12月31日現在)
設立日	1977年8月
決算期	12月決算
事業内容	継手事業 / 防災・工事事業 / 自動車・ロボット事業 / 介護事業
従業員数	単体:385名(2022年12月31日現在) 連結:1,022名 ※臨時雇用者を含む



皆様の生活とのかかわり



◆ テクノフレックスグループは、「生活インフラ」「産業・先端技術」「防災」「介護」の4つの分野で、皆様の暮らす社会を支える事業を展開しています。

The infographic is a central graphic with the text "TECHNOFLEX GROUP" in a white circle. It is divided into four colored quadrants, each representing a business segment:

- 生活インフラ (Life Infrastructure):** Teal background. Includes "水道・ガス" (Water/Gas) with an image of a truck installing an "SDFフレキ" (SDF flexible pipe) into a main water pipe, and "エネルギー" (Energy) with an image of an "H2 Station" hydrogen station.
- 産業・先端技術 (Industry/Advanced Technology):** Orange background. Includes "半導体" (Semiconductors) with an image of a "半導体工場" (Semiconductor factory), "医療機器" (Medical Equipment) with an image of an "MRI装置" (MRI device), and "自動・無人化" (Automation/Unmanned) with an image of "産業用ロボット" (Industrial robots).
- 介護 (Care):** Purple background. Includes "リフォーム" (Renovation) with an image of a hand holding a shower head, "販売・レンタル" (Sales/Rental) with an image of a "介護用ベッド・補助具" (Nursing bed/assistive device), and "リネン" (Linens) with an image of a person handling "いつも清潔な介護用品" (Always clean care products).
- 防災 (Disaster):** Green background. Includes "インテリジェントビル" (Intelligent Building) with an image of a skyscraper, "地震" (Earthquake), "風水害" (Flood/Hurricane) with an image of hands being washed under a faucet, and "火災" (Fire) with an image of a fire and a "スプリンクラー消火設備" (Sprinkler fire equipment).

※ 上記の分野は、当社グループの事業を、皆様の生活に係る4つの分野に整理したものであり、当社の会計上の事業セグメントとは異なります。

当社グループの4つの事業セグメント



① 継手事業



③ 自動車・ロボット事業



② 防災・工事事業



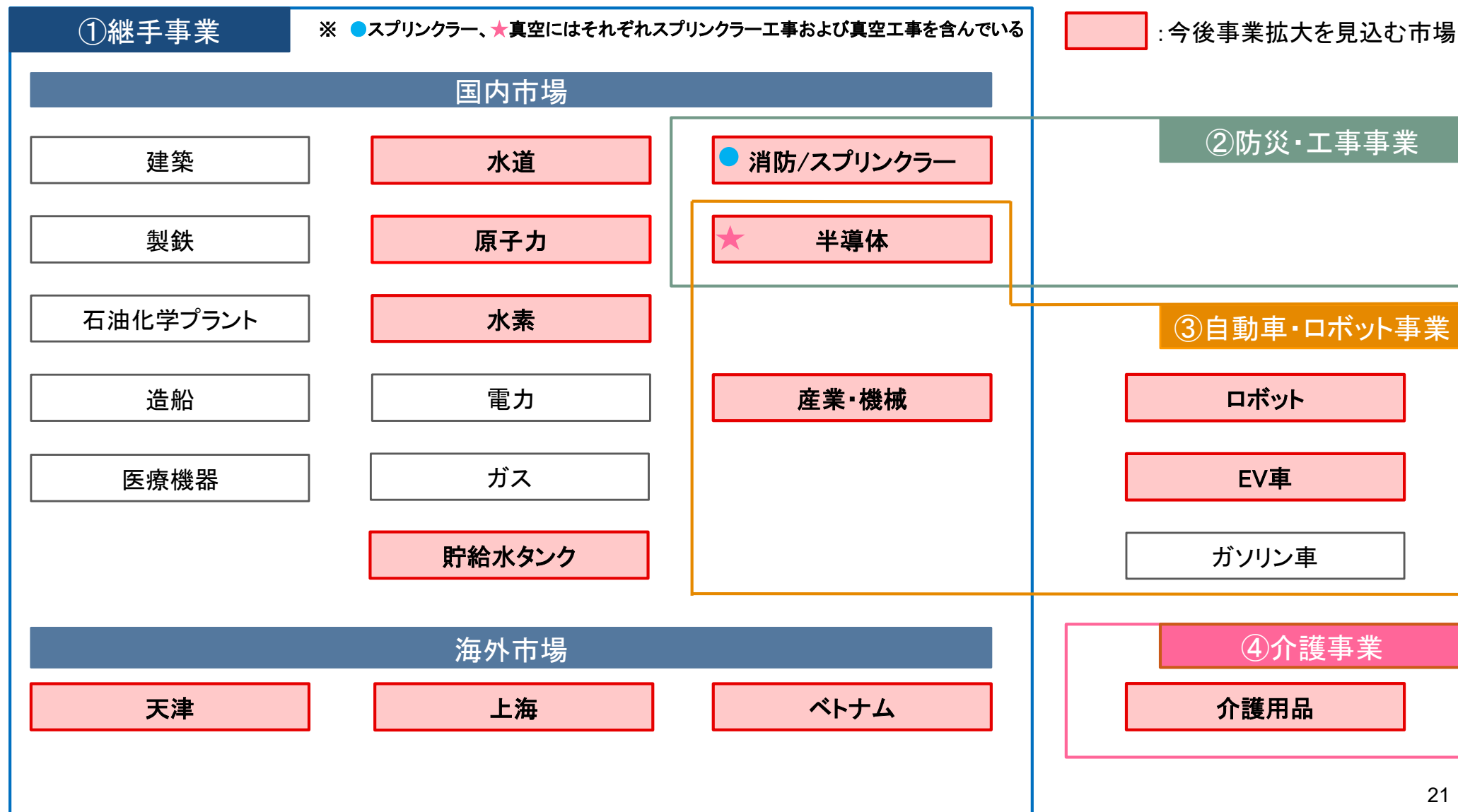
④ 介護事業



マーケットと 4つの事業セグメント



- 当グループがターゲットとするマーケットは多岐にわたり、特に事業拡大を見込む市場としては消防/スプリンクラー、水道、半導体、原子力、水素、貯水タンク、EV車、ロボット、産業・機械、商品販売(介護)、海外市場が挙げられます



- ◆ 管継手 : 管と管のつなぎ目
 - 固定式 : T字型・L字型など固定形状の継手
 - 可撓式 : 継手自体が曲がったり伸び縮みしたりできる継手

テクノフレックス

◆ テクノフレックスの管継手は大きく3種類

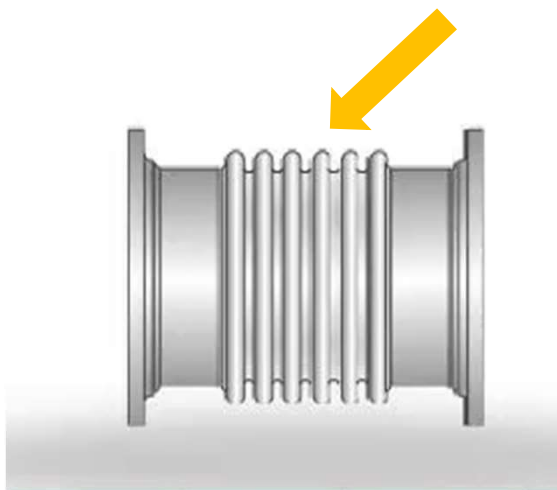
【フレキシブル継手】

全体が曲がる継手



【伸縮管継手】

波状の部分で伸縮が可能



【真空機器】

真空配管用の継手・金属部品



事業セグメント 1 継手事業 ①フレキシブル継手

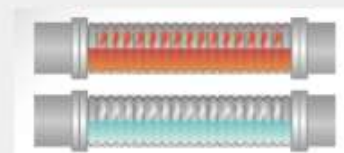
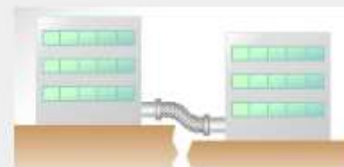


- ◆配管作業を容易に ▶ 作業効率向上。経験の浅い作業員でも設置でき、人手不足の解消にも貢献。
- ◆耐震性 ▶ 地震への対策から、耐震性の需要が高まる。

町のあちこちに
テクノフレックス



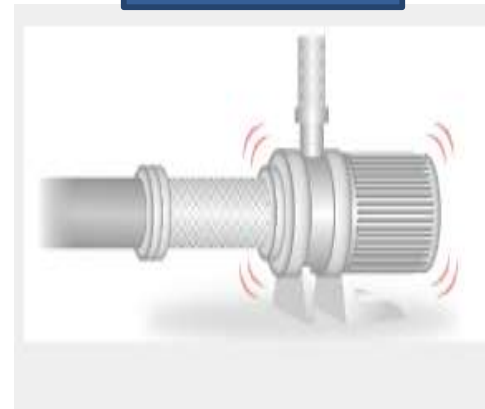
変位吸収



機械的な動作に
対応



振動吸収



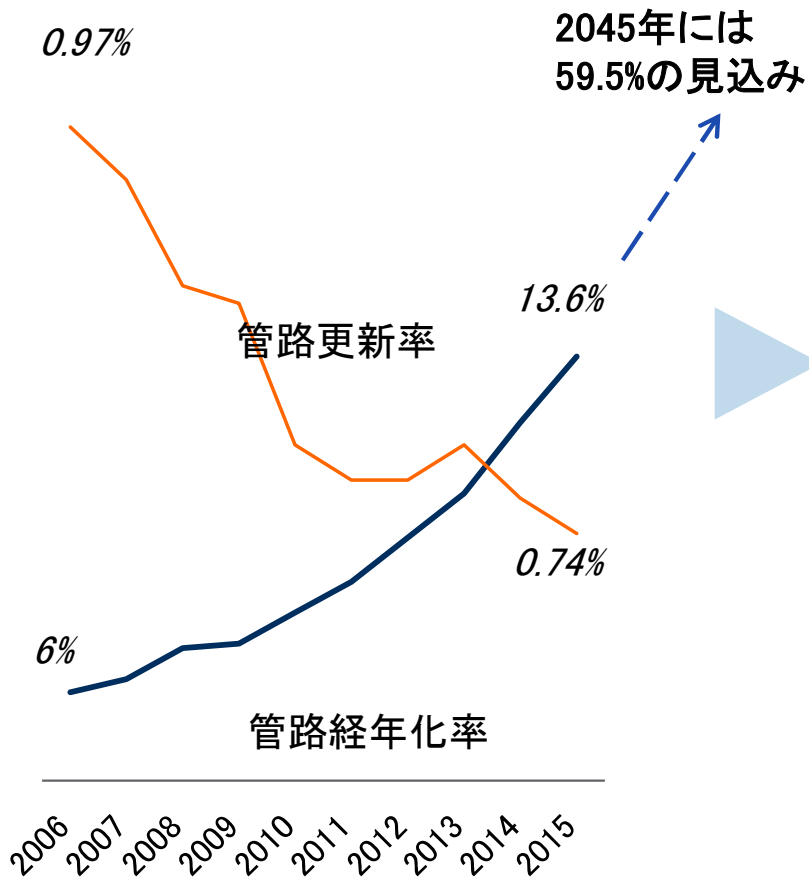
作業効率



大地震で曲がっても
オイル漏れの無い
フレキシブル継手の例



水道の老朽化は進む一方で、
管路更新が進んでいない。



SDF工法

- 掘り起こし困難な場所に最適。
- 既存の水道管の中を通して補修。



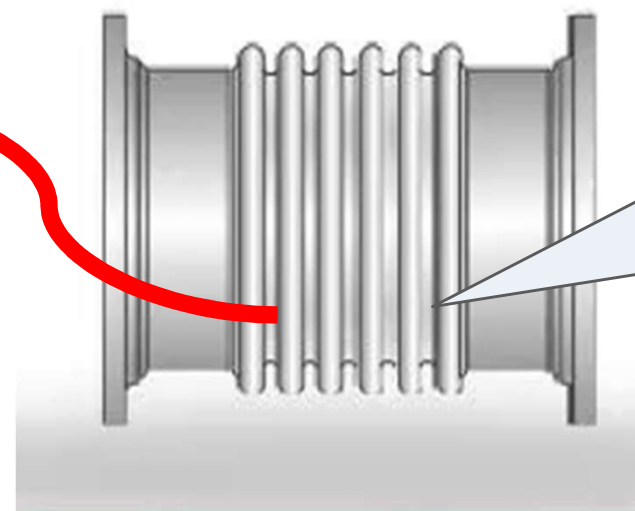
SDF工法向けにフレキ管を供給

第1回インフラメンテナンス大賞
(厚生労働大臣賞)

出所: 最近の水道行政の動向について(厚生労働省)

- ◆ 地震や熱膨張など、様々な負荷から設備機器と配管を守ります。
- ◆ 耐震性に優れ、配管の破損や脱落による流体漏洩等の2次災害を防止。
- ◆ 設置場所

エネルギー関連	石油・化学プラント、電力プラント、LNGプラント、LNG船、水素ステーション、水素運搬船など。
ライフライン	ガス・水道など。
大規模産業設備	製鉄プラントなど。



波状の部分が、伸縮します。角度を付けることもできます。

- ◆ 真空配管とは、微細なゴミも嫌う設備などに設置されるクリーンな配管のこと。
 - 真空機器の製品は、厳しい検査に合格した、気密性に優れた製品。
 - ステンレス製の継手は、組織を均一化するため、熱処理を施す。
- ◆ 製品供給に加え、配管の設置工事・プレハブ加工も一括で受けられるのが、当社の強み。
- ◆ 使用用途

半導体製造装置、FPD製造装置、真空ポンプ、医療機器、医薬品・食品工場などの機械装置

装置間の真空配管

真空ポンプの配管

温度調節用の配管(チラーホース、クライオホース)

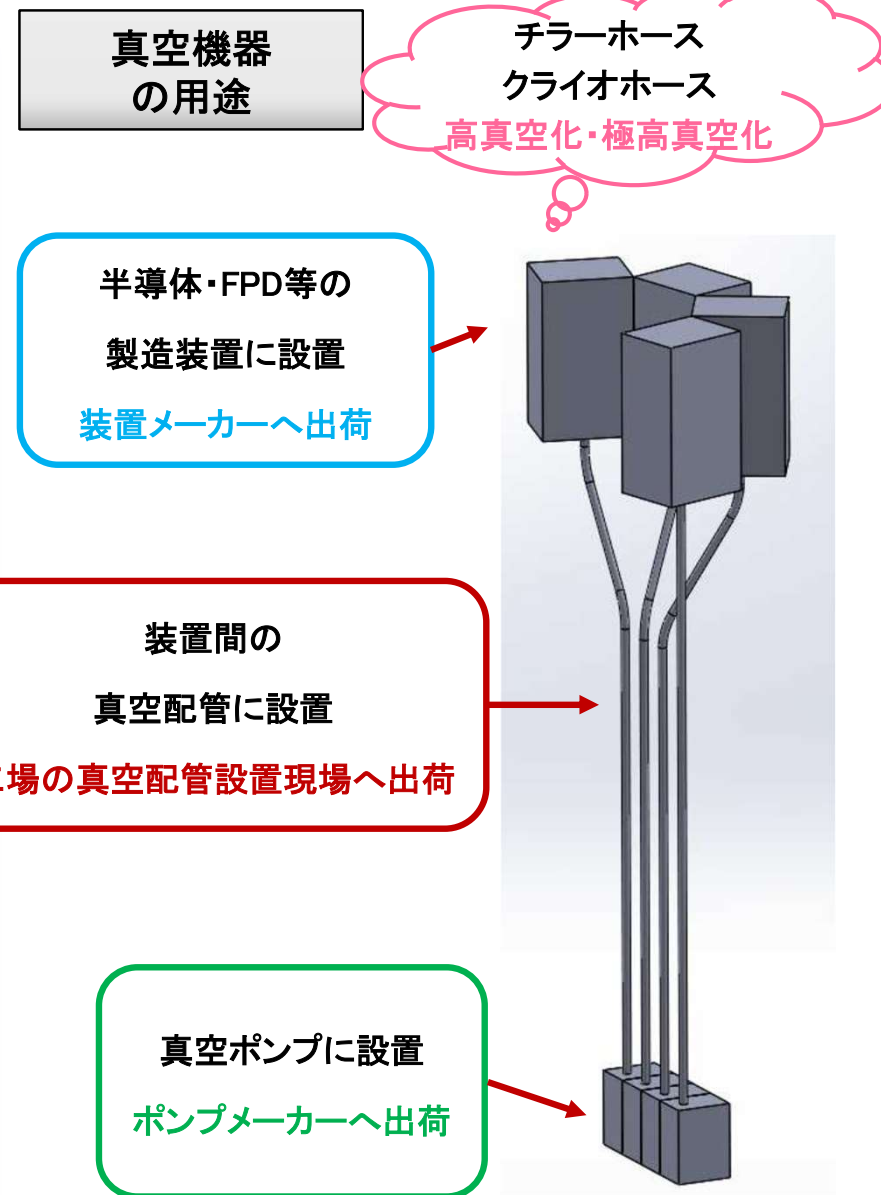


● 当期の状況

- ◆ 世界的な半導体需要の高まりから、半導体製造メーカーによる工場の新設や製造ラインの増設が活況。
- ◆ 半導体の製造(特に前工程)にはクリーンルーム等の真空空間が必要なため、真空ポンプと真空配管を設置。
 - 真空機器の需要が拡大。
- ◆ 当社の真空機器は、半導体・FPD等の製造装置用、真空ポンプ用、装置間真空配管用の3つの用途で、使用。
- ◆ 真空配管の設置工事と工場でのプレハブ加工も請け負っており、製品と工事の両面でサポート。

● 成長イメージ

- ◆ 真空配管は、半導体のみならず、様々な分野の工場で需要が増加。
- ◆ 高度な医療用の診断装置に設置。
- ◆ チラーホース、クライオホースのマーケットシェア獲得。
 - ※ 低温・極低温の空間をつくるための冷却用長尺ホース。近年は加温でも使用。半導体工場等では、高真空・極高真空の空間をつくるためのクライオポンプとクリーンルームとをつなぐ配管に設置。



防災用貯給水タンク「マルチアクア」

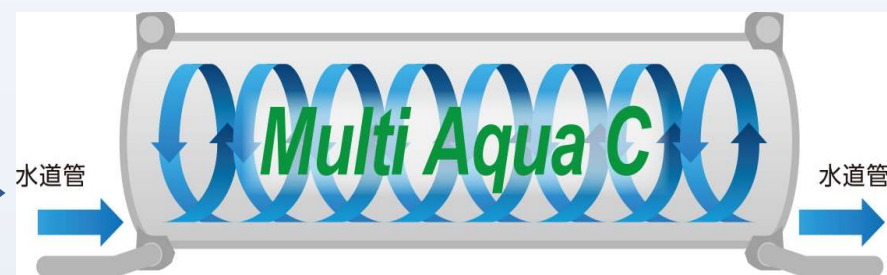
- マルチアクアは、平常時には、給水配管（水道管）の一部として機能しながら貯水を行い、災害等による断水時には、直前まで貯水されたタンク内の水道水を供給する、貯給水タンクです。
- 水道水を使うたびに、マルチアクア内に新しい水道水が貯水されます。そのため、備蓄水のように、消費期限の管理や交換を行う手間が生じません。
- 災害発生時には、飲用の他、傷口の洗浄等にも水が必要です。傷口の洗浄には水道水が適しているとされており、マルチアクアは、飲用にも傷口の洗浄にもご活用いただけます。
- 戸建住宅用には、設置場所に困らない、床下収納の開口部から床下に設置できる製品もございます。
- ペットボトル等の樹脂製容器の使用を削減する効果がございます。サステナブルな社会の実現に、貢献して参ります。



戸建住宅用には、床下収納の開口部から床下に設置できる製品もございます。

タンク内の水が循環して常に新しい水を貯水します。

企業のBCP向け製品「マルチアクアC」。



Multi Aqua C

マルチアクア

3つの“守る”



- ◆ 配管を軸に、川下戦略による防災・工事事業への参入。
- ◆ 防災・工事事業には、2つの事業。

消火設備の配管工事 配管のプレハブ加工

- スプリンクラー等の消火設備の配管工事
- 工場で行う配管のプレハブ加工



自動切断機

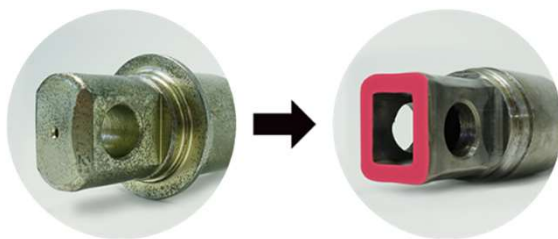
水道管及び電柱の 切断装置

- 自走しながら配管や電柱を切断。
- 東京都が推奨する無電柱化に貢献。



自動車・ロボット事業

- 金属塑性技術を生かした、金属部品の軽量化、材料費の低減及び強度増。
- 多くの自動車メーカーで使用。
- ロボット分野の需要拡大。
- 半導体工場等の機械装置用部品にも採用。



従来製品

パイプ化製品

介護事業

- ケアプランに沿った福祉用具レンタル
- 福祉用具の販売
- 介護用マットレスの洗浄
- 住宅バリアフリー化工事
- 介護サービスの創造



テクノフレックスグループの将来を見据える上で重要なキーワード



■ 当グループを取り巻く環境に大きなインパクトを与える重要キーワードを5つピックアップしました

重要キーワード	市場にもたらす変化	該当セグメント
1 気候変動等による災害増加に対する 防災意識の高まり (国土強靱化計画)	✓ 防災設備需要の拡大 ✓ 国民の防災意識の高まり	✓ 継手事業 ✓ 防災・工事事業
2 戦後日本が築いてきた 社会インフラ老朽化対応 (水道の老朽化対応、都市再開発)	✓ 水道整備関連の予算拡充に伴う取替需要増加 ✓ 都市再開発に伴うビル等の建替需要増加	✓ 継手事業 ✓ 防災・工事事業
3 AIと自動化 (5G商用化、ロボティクス)	✓ 半導体市場の拡大 ✓ ロボット市場の拡大	✓ 継手事業 ✓ 自動車・ロボット事業
4 クリーンエネルギー (脱炭素化、脱ガソリン、脱エンジン)	✓ エンジン搭載車の減少、EV化 ✓ 化石燃料以外の燃料(水素等)の輸送・貯蔵 ✓ クリーンエネルギー設備増設	✓ 継手事業 ✓ 自動車・ロボット事業
5 ヘルスケア (地域包括ケアシステム推進)	✓ 在宅介護が支援されることによる、各家庭向けの福祉用具需要の高まり	✓ 介護事業 ✓ 自動車・ロボット事業

国内マーケットの動向サマリ(1/3)



- 産業・機械と電力は成長、製鉄、石油化学プラント、ガスは低迷を予想しています
- 建築は、中長期的には需要拡大が見込まれるものの、働き手離職等のリスクがあり、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
継手	建築	✓ 中長期的には都市再開発や防災対策に伴う需要を見込めるものの、働き手の大量離職等の不安要素があり下振れのリスクあり
	製鉄	✓ 主要販売先である造船・航空機について今後低迷が予想されることや、EV化により鉄の必要量が減少する可能性があり、今後の見通しは厳しい
	石油化学プラント	✓ 石油化学製品の供給過多やプラスチックに対する規制強化等により、石油化学業界にて積極的な設備投資を期待することは難しいため、低迷傾向が継続するリスクあり
	産業・機械	✓ 半導体等の成長産業での設備投資が見込まれる。 ✓ メインユーザー層である中堅・中小企業の設備投資は冷え込む予想。
	ガス	✓ 人口減少や温暖化対策等による需要減少リスクあり
	電力	✓ 政府の推進する再生エネルギー導入拡大に向け、送電インフラ整備に伴う設備投資需要が見込まれることから、今後の見通しは良好

国内マーケットの動向サマリ(2/3)



- 消防・スプリンクラー、水道、半導体、水素は成長、造船は低迷を予想しています
- 原子力は堅調予測ですが、再生エネルギーの動向次第で縮退するリスクがあり、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
継手	造船	✓ 将来的には水素運搬船に期待が持てるが、当面の間は、コロナの影響により輸送量が減少し、外部環境としては厳しい見通し
	消防スプリンクラー	✓ スプリンクラー設置義務の課される大型施設の新設が引き続き見込まれること、及び過去に設置したスプリンクラーの取替需要が見込まれることから、今後の市場動向は明るい見通し
	水道	✓ 水道管路の老朽化が進んでおり、今後の更新需要が期待される ✓ 成長ドライバーであるSDF工法に対する需要も今後増加見込み
	半導体	✓ 当社グループのターゲットとするメモリーの市場規模は今後右肩上がりに成長見込み ✓ NANDシェア上位5社による大規模設備投資が進行中。
	原子力	✓ 政府による原子力活用の提言により、当面の需要は堅調予測 ✓ 一方で再生エネルギーの成長状況により、将来的には稼働が抑えられ縮退するリスクもあり
	水素	✓ 水素燃料の市場規模が今後拡大していくことに伴い、今後の見通しは良好
	貯給水タンク	✓ 個人/法人の備蓄水に対する需要の高まりや、災害時の一時滞在施設の設置推進の動きにより、今後の需要は拡大の見通し

国内マーケットの動向サマリ(3/3)



- 消防設備工事、貯水タンク、ロボット、介護事業は成長、ガソリン車は現状維持を予想しています
- EV車は成長見込みの一方、低価格化や社会インフラ整備といった課題を有するため、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
	防災・工事	<ul style="list-style-type: none">✓ 半導体工場、データセンターの増設により、消防設備工事が増加✓ 都市の再開発による建物の高層化・大型化で、消防設備工事が増加
自動車 ロボット	ガソリン車	<ul style="list-style-type: none">✓ 自動車需要は世界的に高まりを見せる一方で、EV車の割合が増加していくことから、差し当たっては緩やかな増加/横ばい傾向が予想される
	EV車	<ul style="list-style-type: none">✓ 脱炭素に向けた動きもあり、今後大きく伸長する見通し✓ 一方で低価格化や社会インフラ整備などの課題もあり、普及が遅れるリスクもあり
	ロボット	<ul style="list-style-type: none">✓ 自動車を中心とした低価格化の要請に応える形で需要を大きく拡大していく見通し
	介護	<ul style="list-style-type: none">✓ 少子高齢化の進行に伴い、今後の需要は引き続き伸長していく見込み✓ 高齢者人口の増加と併せて、中国で廉価な福祉用具が流通しており、国内販売市場を開拓できる余地あり

2023年12月期



決算補足説明資料 - 完 -

株式会社テクノフレックス
証券コード:3449